



会報

令和2年
会報第1号

発行・編集

鹿児島県教頭会

〒892-0836

鹿児島市錦江町2-16
鹿児島県公立小・中学校
教頭会館県教頭会事務局

Tel 099-226-8268

Fax 099-822-5580

会長就任のあいさつ



鹿児島市立鴨池小学校

下村 尚

五月八日に県公立小・中学校教頭会の「委員会」開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止により紙上協議にて御承認をいただき、昨年度に引き続きまして会長に就任することになりました。

本年度の県公立小・中学校教頭会の会員数は七〇一名、新任教頭が一五名です。この数年一〇〇名前後の管理職への登用が続き、若い教頭先生が増えているのが本県の特徴です。

昨年度の三学期から続く新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う臨時休業等もあり多様な業務に対応せざるを得ない状況の中、学校の要として、日々御尽力いただいでい

る県下の教頭先生方のことを思い浮かべると、昨年度以上に責任の重さを痛感しております。微力ではありますが、精一杯取り組んでまいりたいと思っておりますので、皆様の御支援と御協力のほどよろしくお願いたします。

新型コロナウイルスの感染拡大防止に関わる緊急事態宣言が解除され、都市部においても教育活動が少しずつ再開されてきていますが、本県においても「学びの保障」のために夏季休業の短縮など、これから社会全体が長期にわたってこの感染症と向き合いな

予想されます。

昨年の十二月にPISA 二〇一八の結果が公表され、数学的リテラシー及び科学的リテラシーはこれまでに引き続き世界のトップクラスという結果でした。しかし、「読解力」については、前回の二〇一五年の調査よりも平均点及び順位が下がっていました。判断の根拠や理由等を明確にして自分なりの考えを述べる力の育成が課題であるという事です。この点は、今年度は実施されませんでした

が、毎年四月に行われる全国学力・学習定着度調査の本県の結果にも通ずるところがあります。本県の教育に携わる私たちがどう取り組むかです。子供たちの学びに大きく影響します。

学校を含めて社会全体が長丁場の取り組みを強いられま

の初年度になります。この研究主題は、今日的な教育課題の解決に向けて全国的な視野で会員の願いを統一したものです。

私たち教頭は、「職能研修団体」として職務の専門性を高め、多岐にわたる教育課題に対応していく資質や能力を身につけていかなければなりません。

そこで、本会では次のことに重点を置いて活動を進めてまいります。

第一に、第五十四回研究会が多くの会員の皆さんにとって充実したものになるように、提言者や指導助言者、役員として御協力いただき先

生方等のお力を借りながら運営してまいります。

頭会などの各種団体とも連携を強化し、要請活動を継続してまいります。

四つめに、今年度の研究大会の反省をもとに、次年度の研究方向性を定めていくことです。令和四年には九州大会鹿児島大会開催を予定しています。各地区の委員、研修部長、提言者の皆さんと連携を深めながら進めてまいります。

最後になりましたが、多くの課題が山積する教育現場ではありますが、この難局を乗り越えていくためには、教頭先生方のこれまでの経験と建設的な御意見が必要と考えます。県公立小・中学校教頭会は、今後も広く会員の皆さんの声を聞かせていただき、それを活かしながら相互の連携を深め、充実した活動を進めていきたいと思っております。令和二年度の各学校における教育活動が充実し、本県教頭会が堅実に前進することを祈念しあいさつとさせていただきます。

私の勧める一冊の本

『愛しの座敷わらし』

著者 荻原浩
(朝日新聞出版)

南九州市立勝目小学校

福田 博昭

県教頭会の会報にいかげなものかと随分悩んだのだが、楽しく読める一冊として皆さんに紹介したいと思う。すでに水谷豊主演で映画にもなり、ご覧になった方も多いとは思うのだが、是非本を読み大いに笑い大いに泣いてほしいのである。

座敷わらしという(妖怪? 福の神?)を信じるか信じないかはどうでも良いことなのである。この本では現代社会の様々な問題を背負った登場人物が一流のユーモアを織り交ぜながら、最終的に日本の家族のあり方を考えさせてくれる。

会社の人間関係や転勤、そして働き方に悩みもがく父親。

子育てとご近所付き合いに疲れ果てる母親。

携帯電話に翻弄され友達を

無くした中学生の娘。過保護気味で喘息もちの小学生の息子。

老いと認知症を恐れ、引きこもり がちな祖母。そんな五人家族が田舎の大きな一軒家に住み始めたところから物語がスタートするのだが、ここに座敷わらしがちらりちらりと登場し、爆笑の珍事件が巻き起こるのだ。まるでドタバタ喜劇の台本のような文章ではあるが、妙に納得させられる家族のやりとりやそれを取り巻く人間模様が見事に表現されていて小気味よい。

座敷わらしが生まれた「いわれ」はとてつらい話ながらも、みんなのやりとりが語られる行間からは不思議な暖かさを感じる。そして、そこから家族が物事を前向きに考え、一つにまとまっていく様子は読んでいて清々しい気持ちのなにか・・・と思わせてくれる。

最後ににやりとさせられる意外な「落ち」まで一気に読んでしまおう痛快な本である。

『育てて勝つ』はカープの流儀

著者 坂上俊次
(株式会社カセン)

鹿児島市立清和小学校

林 友洋

私は小中学生の頃、野球三昧の生活だった。当時の私は暇を見つけてはボールさえあれば仲間と一緒に広場で野球をして遊んでいた。今は、新聞で野球関連の記事を見てはワクワクしているぐらいである。

そんな私が、最近、一冊の本を手にした。これまで広島カープに携わった監督やコーチ陣の考え方、スカウトの方等、多数の方々の考え方が書かれていた。

その中の考えの一つとして、基本練習を人の何倍何十倍もすることの必要性について述べられていた。「考えるより先に、気がついたら体が動いている。」それが自然にできるように、そのための練習がそうだ。また、基礎体力を適時に付けることで、長い間選手人生を送ることにつながるのだそう。前記のことだからこそ、スカウト陣は、

結果や記録から大型新人と注目するのではなく、練習にひたむきに取り組む選手を見つめるのだそう。私なら安易に大型新人を選んでしまいそう。また、失敗を自分のこととして受け止められる選手を大事にするのだそう。人として大事にしたい考え方だと感じた。

次に注目したのは「和」の考え方である。日頃から監督やコーチは選手とコミュニケーションをとることを大事にしている。しかし選手同士が大事にしていることは、個人の能力の向上による「和」だそう。プロとアマの考え方の違いだろうか。「アマは和して勝つ、プロは勝つて和す」とまとめられていた。この言葉に全てが集約されているように感じた。お互いの個性を伸ばした先に栄光がある。学校現場でも時には必要な考え方かもしれない。

最後に、業務改善を進める今だからこそ、何を削り、何を続けなければならないか、流行や見た目に惑わされずに熟慮できるようにしたい。

自由投稿

「明けない夜はない」

伊仙町立犬田布中学校

小倉 剛

四月末、町地域女性団体連絡協議会から手作りの布マスクが届いた。町内の子どもたちがマスク不足で困っている状況を知り、九百三十枚が幼稚園や学校に贈られたそうである。添付されたプリントには、かわいいイラストとともに、言葉が添えられていた。

こどもたちの笑顔までもう

みんなで明るい明日へ

にじを架けよう

いまを大切に

たすけあい

あなたの未来

いちばん大切

その後、スポーツマスク・非接触型体温計などの寄贈が相次いだ。「くわどう宝(子どもこそ宝)」・「結」の精神文化が根付く地域性を物語っている。そして、県内・全国・世界各地で同様に多くの善意や激励の

メッセージが寄せられ、感謝の声があふれた。

四月下旬、二度目の臨時休業期間に入り、子どもたちの姿のない、声が響かない学校が続いた。休業明けの登校日、校舎もグラウンドもようやく息を吹き返し、喜んでいるように見えた。子どもたちの輝きがあつてこそその学校だとつくづく感じた。

まだしばらくは、「学校の新しい生活様式」などを念頭に置きつつ、児童生徒の輝きが多く見られるよう学校運営をしなければならぬ。

「明けない夜はない」。一刻も早い夜明けを願うばかりである。

随想

「明確なビジョンを」

屋久島町立中央中学校

金丸 正志

これまで出会った多くの生徒のおかげで、たくさん経験させていた。現任

校の屋久島の生徒たちは、素直で、毎日、気持ちの良いあいさつしてくれるので、さすがにいい日々を過ごしている。

その様な中で今までの振り返ると、自分としてはできる限りの努力をしてきたつもりだが、生徒の立場に立つと本当にそれでよかったのだろうかと思うことがある。

初任校で担任をした卒業生との会話の中で、「先生は、一部の人たちの世話に一生懸命で私たちにはあまり手をかけてくれなかった。」という言葉が今も心に残る。

生徒指導困難校で全校生徒千人を越す大規模校であったが、このような思いを生徒にさせたことも事実であった。一生懸命取り組んできたことは、「つもり」であり、「結果」としてはあらわれてい

なかった。その原因は、明確なビジョン、哲学がなかったからだったと思う。また、自分なりに頑張っていたつもりで、自己満足していただけであった。それでは、教師として不十分で生徒、保護者、地域の期待に十分に答えられていなかったと教員から気付かされた。

それ以降は、業務に追われながらも、「明確な意思」をもって仕事をしてきたことがプラスに働いてきている。

これからは、生徒に「目標を持って」と声をかけると同時に、教師も「明確な目標」を持ち続け、チームで生徒に接することを大切に、今以上に結果を引き出せるようにしていきたい。そして、更に高い目標へ挑戦しようとする生徒を育成していきたい。

人は、憧れの存在がいるから何かならうと決心できるのだと思う。私は、小学校の担任の先生のようになりたくて教師を志した。そして、管理職になる決心をしたのも、管理職の先生方への憧れがあったからだ。そこで、私が、管理職の先生方の何に憧れたのかを以下に二つ述べる。

一つ目は、子供だけでなく、職員にも夢や希望を抱かせてくれたことだ。こうすれば学力が伸びる。こうすれば誰もが居心地のよい学校になる。管理職の示す明確なビジョンや、具体的な指導や助言には、職員が一丸となって前向きに頑張ろうと思わせてくれる力があった。

二つ目は、大樹のようなどっしりとした存在感だ。不測の事態にも慌てない姿。「大丈夫。何とかあります。」「責任はとるから先生たちがやり

新任教頭雑感

「目指す管理職としての姿」

志布志市立潤ヶ野小学校

内 芳文

私は、憧れの存在がいるから何かならうと決心できるのだと思う。私は、小学校の担任の先生のようになりたくて教師を志した。そして、管理職になる決心をしたのも、管理職の先生方への憧れがあったからだ。そこで、私が、管理職の先生方の何に憧れたのかを以下に二つ述べる。

一つ目は、子供だけでなく、職員にも夢や希望を抱かせてくれたことだ。こうすれば学力が伸びる。こうすれば誰もが居心地のよい学校になる。管理職の示す明確なビジョンや、具体的な指導や助言には、職員が一丸となって前向きに頑張ろうと思わせてくれる力があった。

二つ目は、大樹のようなどっしりとした存在感だ。不測の事態にも慌てない姿。「大丈夫。何とかあります。」「責任はとるから先生たちがやり

たいことをしてください。」という頼もしい言葉。それらのお陰で、安心して教育活動に取り組むことができた。

新任教頭として赴任し、三か月近く経った。不慣れな仕事に加え、臨時休業など非常事態もあり、綱渡りのような日々を過ごしている。そんな私に、校長先生や職員、保護者、前任の教頭先生までもが、温かい励ましや助言を下さる。子供たちの元気なあいさつにも救われている。何ともありがたい。しかし、少し情けない。憧れの管理職のようななるには、これからだ。まずは、知識を増やし、経験を積み、職員が気軽に相談できる教頭になることを目指していきたい。